科目ナンバリング							
授業科目名 <英訳>	外国文献講読（法・英）Ⅰ-E1 Readings in Humanities and Social Sciences (Law, English)I-E1			担当者所属職名・氏名	法学研究科　教授　　船越　資晶		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	外国文献研究		使用言語	日本語	
旧群	C群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	演習（対面授業科目）
開講年度・開講期	2024・前期	曜時限	月4	配当学年	２回生以上	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

“ We are all legal realists now. ”このフレーズが示すように、現代アメリカ法理論は、正統派のそれも含めて、20世紀前期に革新的な主張を唱えて論争を巻き起こしたリアリズム法学の影響を（実は）強く受けている。本授業では、現代の異端派を代表する批判法学の立場から書かれた明快な論文、Joseph William Singer, “ Legal Realism Now, ”76 California Law Review 465 (1988) を、リアリズム法学と現代正統派アメリカ法理論（リチャード・ポズナー、ロナルド・ドゥオーキンなど）の関係を論じた Part II を中心に講読する。このことを通じて、現在われわれはどのような地平の上で法を語っている（語るべきである）のかについての理解を深めることを目指す。

[到達目標]

英語文献の読解力を高める。
現代法理論に関する基礎知識を身につける。

[授業計画と内容]

初回授業時には、指定文献を読解するために有用と思われる情報を提供するとともに、授業の進め方などについて説明する。
２回目以降は、指定文献を精読していく。受講者に該当箇所の日本語訳を述べてもらい、それに教員が解説・補足を加える。また、内容について質疑応答を行う。なお、翻訳の担当箇所を事前に割り当てることはせず、教員が受講生を適宜指名する方式をとる。
時間的な余裕があれば、最終回には、まとめを行う。

[履修要件]

外国文献講読（法・英）は専門への導入コースなので二回生以上を対象とする。

[成績評価の方法・観点]

平常点評価（30%）と期末試験（70%）による。

[教科書]

授業に必要な資料はプリント配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

必ず予習して授業に臨むこと。

[その他（オフィスアワー等）]